

大学生が創る子どものための の「スポーツ三間」

奈良教育大学 学校教育教員養成課程 保健体育専修 3回生

丹後 直哉

須川 涼太

土肥 惇平

鳥谷 杜仁

奈良県の教育・スポーツに関する現状と課題

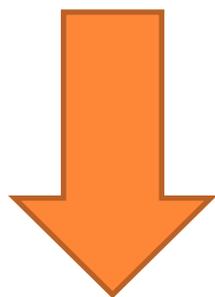
- 課題1. 規範意識の高い子どもの割合が平均より低い。
- 課題2. 子どもの体力・運動能力が全国平均以下である。
- 課題3. 奈良県スポーツ推進計画によると、奈良県の中学生は運動部活動の所属者の割合が低い。

現状:奈良県の体育・スポーツ施設(2,047か所)のうち、7割以上が小中高などの所有する学校体育施設である。



本政策の提案

この現状(学校体育施設の多さ)を踏まえ、
これらの課題を解決するために



奈良教育大学の空いている体育施設を活用し、
子どもたちに「スポーツ三間」を提供します。



三間(空間・時間・仲間)減少と、その重要性

- 習い事などに通い遊ぶ時間が減少している。
→ 時間を提供する必要がある。
- 安全な空間が減少している。
→ 場所＝空間を提供する必要がある。
- 遊ぶ仲間が減少している。
→ 遊ぶ仲間の単位を増やす必要がある。



スポーツを通して三間を提供する



スポーツ三間

- 時間： 遊び・スポーツをする時間
← スポーツプログラム
- 空間： 遊び・スポーツをする空間(場所)
← 奈良教育大学体育施設
- 仲間： 遊び・スポーツを共にする仲間
← チームメイト、対戦相手
→ フェアプレイ、スポーツマンシップ
の育成



本政策の実施方法(1)

- 対象⇒ 県内の小学生(4~6年)30名程度
- 場所⇒ 奈良教育大学内の体育施設。
- 実施形態⇒ 数種類のスポーツを予定し、隔週でそれらのスポーツを行う。
- 企画、運営⇒ 県内の幼児教育、体育、保健分野を専攻する大学生。



本政策の実施方法(2)

当日の役割分担と人数

役割	イベント 企画・広 報担当	指導員	運営担当	救護担当
人数	約5名	約5名	約5名	約3名

実施スケジュール

	1月	2月	3月	4月	5月	6月
実行委員会の 設立	→					
イベント企画		→				
当日スタッフの 募集			→			
広報・参加者呼 びかけ				→		

実施内容	7月	8月	9月	10月	11月	12月
当日スタッフ の事前講習	→					
イベント実施		→				
事後評価 反省会		→				



運動活動の内容

第1回、第2回、第3回： 水遊び
(鬼ごっこ、水球、リレーなど)

第4回、第5回： ベースボール型スポーツ
(ラケット野球、キックベースなど)

第6回、第7回： 陸上競技
(走り方指導、リレーなど)

第8回、第9回： ゴール型スポーツ
(サッカー、アルティメットなど)



期待される効果(1)

- 大学内の使用されていない体育施設を活用することで、地域のスポーツ振興に貢献する。
- 地域に開かれた大学となり、地域のコミュニティとしての役割を果たすようになる
- 遊び場・時間が減り、身体を動かす時間が少なくなっている小学生にスポーツを楽しんでもらい、スポーツを好きになってもらうことで将来スポーツを続ける子どもたちが増え、各年代の体力・運動能力が現状より良くなる。



期待される効果(2)

- 将来的にイベントの規模を大きくして、より多くの小学生に参加してもらったり、対象年齢をあげたりして運動不足、健康志向の高齢者などを対象にする。
- 奈良教育大学での事業をモデルとして、今後、県内の小中高などの体育施設を活用したスポーツイベントを行う。
- 「スポーツ三間」の中でも特に仲間づくりに力を入れ、フェアプレイ7カ条を子どもたちに指導し、規範意識を高める。

